

実践報告

## 外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践： 留学生を対象としたアンケート結果から

正路 真一・福岡 昌子・松岡知津子

### Internship project in Mie for international students: Questionnaire-based research with international students

SHOJI Shinichi, FUKUOKA Masako, MATSUOKA Chizuko

〈Abstract〉

This report is based on a questionnaire that international students answered regarding their internship experiences. The results indicate that the international students gained positive experiences, specifically from their interactions with company staffs and from their working experiences. Further, the internship contributed to their Japanese language knowledge as well as business-related knowledge.

キーワード：インターンシップ、留学生、日本語、ビジネスマナー、事後アンケート

#### 1. はじめに

近年、大学生の就職活動の一環としてのインターンシップの普及が進んでいる。例えば2017年度に卒業した大卒新社会人の7割以上が学生時代にインターンシップの経験があるとしている（就職情報研究会 2017）。学生にとってのインターンシップの意義として、文部科学省・厚生省労働・経済産業省（2014）は、「学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる。また、これにより、就職後の職場への適応力や定着率の向上にもつながる」という点を挙げており、三浦（2016）の研究においても、短期インターンシップを経験した学生と経験していない学生の進路決定率を比較した場合、インターンシップを経験した学生（90.5%）の方が経験していない学生（68.3%）よりも有意に高いことが示されている。更にインターンシップに参加した学生には筆記試験や面接などの選考回数を減免するなどの優遇措置が設けられることが多いため、学生の側にとってもインターンシップは就職活動を進める上で欠かせないものになりつつある（就職情報研究会 2017）。

筆者ら三重大学地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門教員は、特に外国人留学生を対象として2017年度からインターンシップを実施しており、本稿はその取り組

みについて、特に留学生を対象としたインターンシップ終了後アンケート調査の結果を報告するものである。当インターンシップに参加した学生の多くは短期留学生・交換留学生であるので、前述のような日本人学生が就職に直結するものとして参加するインターンシップとは一線を画している。筆者らが留学生を対象としたインターンシップを実施する意図としては、外国人留学生に現実場面における日本語使用および日本社会体験の機会を与えるという点が挙げられる。外国人留学生達が日本に留学する意義とは、留学先大学で日本語を勉強し、日本人学生達と交流することはもちろんであるが、日本語の使用と文化・社会学習の場が教室内に限られず、生活の中のあらゆる場面で体験できることが大きなアドバンテージとしてあることにある。大学の外側のコミュニティーに存在している日本人・日本社会との交流は、留学生にとってより効果的な語学・文化・社会学習につながると考えられ、企業・団体でのインターンシップに参加することも、そういった機会が得られる一つの場であると考えられる。

## 2. 三重大学の留学生対象インターンシップ事業について

### 2.1 概要

三重大学地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門は、2017 年度から 2018 年 8 月現在に至るまで、下記表 1 にあるように、合計 23 人の留学生を、12 の企業あるいは団体にインターンとして派遣した (インターンシップを実施した時期の順に記載)。

表 1 の内、⑨機械製造会社でのインターンシップは筆者らグローバル人材教育開発部門が企画したインターンシップではなく、三重大学キャリア支援センターが主管のインターンシップであるが、筆者らの呼びかけに応じた留学生 2 人をキャリア支援センターに紹介して派遣したものである。また、⑧地域貢献団体とは、主に地域の子どもたちを対象として、スポーツ教室や講演会またはその他のイベントを実施している団体であり、今回のインターンシップでは、地域の小学生を対象とし、寺院を学習の場とした夏季学習プロジェクト (「リアル寺子屋プロジェクト」) に留学生がインターンとして参加したものである。更に、⑫ IT 企業でのインターンシップに参加したアメリカ人学生は、前年度に三重大学に短期留学をしていた学生であるので、インターンシップ当時は三重大学所属の学生ではない。彼は現在所属する米国大学の夏休みを利用して、表 1 の中で唯一長期のインターンシップを行ったものである。

表 1 に示されるように、インターンシップの日数は 3~5 日間のものがほとんどであり、またインターンシップに参加した留学生の多くは女子学生であった (女 18 : 男 5)。また大部分のインターン留学生は留学期間が 1 学期ないしは 2 学期の短期留学生であるが、こ

外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践：留学生を対象としたアンケート結果からは筆者らが受け持つ授業を受講している学生の大多数が短期留学生であるため、口頭で直接参加を呼びかけることができたのが主に短期留学生であったことに起因すると思われる。

表1 インターンシップ参加学生と受け入れ企業一覧

受け入れ企業・団体の業種（インターンの就業場所）	インターン留学生（国籍・性別）	インターン留学生（短期・正規）	時期（日数）
①リゾート（美杉町）	中国人・男	短期留学生	2017年度2月（5日間）
②ホテル（鳥羽市）	中国人・女	短期留学生	2017年度2月（5日間）
	ベトナム人・女	短期留学生	
③国際交流団体（鈴鹿市）	イギリス人・女	短期留学生	2018年度6月（2日間）
	インドネシア人・女	生物資源学部 正規大学院生	2018年度7月（3日間）
④国際交流団体（津市）	台湾人・女	短期留学生	2018年度6月（5日間）
	ベトナム人・女	短期留学生	2018年度6月（3日間）
⑤ゲストハウス（志摩市）	フランス人・女	短期留学生	2018年度6月（5日間）
	中国人・女	短期留学生	2018年度6月（4日間）
⑥製薬会社（津市）	韓国人・女	短期留学生	2018年度7月（3日間）
	韓国人・女	短期留学生	
⑦食品会社（伊勢市）	タイ人・女	短期留学生	2018年度7月（3日間）
⑧地域貢献団体（津市）	中国人・男	短期留学生	2018年度8月（5日間）
	ベトナム人・女	短期留学生	
	ベトナム人・女	短期留学生	
	ロシア人・女	短期留学生	
	イギリス人・女	短期留学生	
⑨観光（鳥羽市）	中国人・女	短期留学生	2018年度8月（4日間）
	ブルガリア人・女	短期留学生	
⑩機械製造（津市）	ベトナム人・男	工学部 正規学部生	2018年度8月（10日間）
	韓国人・女	短期留学生	2018年度8月（3日間）
⑪英会話教室（津市・松阪市）	インドネシア人・男	生物資源学部 正規大学院生	2018年度8月（3日間）
⑫IT（松阪市）	アメリカ人・男	米国大学 学部生（過去の三重大学交換留学生）	2018年度5月～8月（3ヶ月間）

## 2. 2 事前準備

### 2. 2. 1 インターンシップの期間と時期の決定

インターンシップ期間を何日間に設定するかということにあたっては、三重大学の他部局のインターンシップの事例を参考にした。これまでの三重大学の日本人学生のインターンシップは、いわゆるワンデーインターンシップから数カ月に渡るものまで多様であったが、5日～10日間のものが最も多かった。更に、三重大学の人文学部では、以前から人文学部所属の留学生を対象にインターンシップ事業を行ってきたが、こちらも5日～10日間のものとして実施されていたため、筆者らもこれを基準に5～10日を目処としてインターンシップ先企業の開拓にあたることとした。

どの時期にインターンシップを実施するかという問題については、2017年度に初めてインターンシップを企画した際には(表1 ①②)、大学の長期休暇中を選んだ。これは、5～10日間のインターンシップをするために普段の大学の授業を休まなくてもいいようにという配慮であったが、結果的にこの設定は失敗であったと思われる。というのは、特に短期留学生は、長期休暇に入ると日本各所に旅行に出かける留学生が多いため、2017年度2月のインターンシップは、参加希望者が当初1人だけしか集まらなかった。その時点までに受け入れ企業を2社確保していたため(表1 ①②)、このままでは少なくとも1社でのインターンシップをキャンセルするという可能性が濃厚となった。そうした事態は、キャンセルとなる企業との今後のインターンシップ受け入れ交渉に影響を及ぼすと考えられたため、少なくとも各社に1人ずつのインターン留学生を確保して、インターンシップのキャンセルを回避する必要があると考えた。最終的には筆者らから直接数人の留学生に個人的に参加を持ちかけ、結果合計3名のインターン学生を(表1の①に1名・②に2名)確保した。この内2人からは、インターンシップ日数を短縮するという希望を汲んで了承を得た。こうした経験から、2018年度(表1 ③以降)はインターンシップ時期を、留学生が確実に三重大学周辺にいる学期中に設定した。具体的には6月末と11月末を基本線として企業・団体と交渉にあたり、各受け入れ企業・団体の希望に沿う形で具体的な日程を個別に設定した。これにより、インターンシップ参加期間中は、インターン留学生は大学の授業を欠席しなければならないということになったが、参加希望学生の獲得に苦労することはなくなった。授業を欠席するというのは留学生の日本語学習にとってマイナスであるという見方もあるが、インターンシップに参加して日本の会社での仕事に従事すること自体が長時間の日本語演習および日本のビジネス文化学習の場であるとも考えられるので、授業の欠席については重大な問題とは捉えなかった。

## 2.2.2 参加留学生の募集と事前学習

インターンシップに参加する学生の募集は、留学生への一斉メール、募集要綱の大学内での掲示、筆者ら教員による授業中での呼びかけによって行った。前述の通り、2017年度に実施した二つの企業でのインターン募集は設定時期のために難航したが、2018年度に実施したインターンシップの参加学生の募集は比較的容易であった。ただし、2018年度にインターンシップに参加した20人の留学生の内11人が、2017年度の参加者と同様、インターンシップ日数の短縮を希望したことには注意を払う必要がある。おそらく留学生の、インターンシップに長期間参加することに対する不安の表れではないかと思われるが、これに関しては、後述のインターンシップ修了後のアンケート結果報告の章で触れる。

インターンシップの事前準備として、インターンシップ参加予定の留学生を、筆者らが2017年12月9日と2018年6月23日に実施した「留学生対象ビジネス日本語講座（2時間・会場：三重大学）」、そして三重地域留学生交流推進会議主催が2018年6月5日に名古屋外国人雇用サービスセンターから講師を招いて実施した「留学生対象企業インターンシップのためのビジネスマナー講座（1時間・会場：三重大学）」に出席させた。これらの講座の内容としては、挨拶、自己紹介、ビジネスシーンでよく使われる表現などの言語的知識から、お辞儀、名刺の渡し方、服装、「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」などのビジネスマナー、日本で一般的に行われている就職活動の流れやインターンシップの説明などの非言語的なものを広く取り上げた。これらの講座には、インターンシップに参加する留学生は出席必須、それ以外の留学生も出席可としたが、実際には、2017年12月9日のビジネス日本語講座には2017年度にインターンシップに参加した3名の留学生を含む12名が出席、2018年6月23日の同講座には2018年度にインターンシップに参加した20名のうち7名のみ出席した。インターンシップ参加予定でありながら6月の講座を欠席した留学生（13名）が多かった理由としては、13名の5名は既にインターンシップ期間に入っていて出席ができなかったこと、1名がその時点でまだインターンシップ参加が決まっていなかったことがあるが、その他7名は「諸用による」などを理由とした単なる欠席である。当日の天気が雨であったことも影響したかもしれない。正路・福岡・松岡（2019）に述べられているように、この講座で学習する内容は、受け入れ企業・団体がインターン留学生に事前に習得しておいて欲しいとするものと一致しているので、今後はインターンシップに参加する学生には出席させることを徹底したい。また、2018年6月5日のビジネスマナー講座に関しては、2018年度にインターンシップに参加した20名のうち13名を含む20名が出席した。インターンシップに参加予定でありながら欠席した7名については、1名が既にインターンシップ期間中であったことにより、また5名がその時

点でまだインターンシップ参加が決定していなかったことにより、そして残る 1 名が諸用により欠席した。

### 2.3 インターンシップ中の対応

留学生のインターンシップ期間中は、筆者らが学生とメール等で連絡を取り、問題がないかどうか逐次確認した。その中で、表 1 にある 23 人の留学生のうち、4 人の学生が、インターンシップ開始後に、途中で辞めたいと申し出た。それぞれの理由としては、「インターンシップの内容が、想像していたものと違った」、「急にアルバイト先に欠員が出たため自分が入らなければいけない」、「お金が足りなくなってきたのと、人前で通訳をする仕事が怖いため」などであった。インターンシップが就業体験である以上、一旦始めた仕事を中断するというのは就業者としての意識に欠けているし、また受け入れ先機企業・団体にも不信感や不満感を与えるものであろう。今後は、留学生がインターンシップに参加する前に、生半可な理由で中断することは許されることではないと説明する必要があるという教訓が得られた。

### 3. 実践報告：インターンシップ修了後の留学生対象アンケート

インターンシップが終わった後、留学生インターンと受け入れ企業・団体を対象として、アンケートを実施した。この節では留学生インターンを対象としたアンケートの結果を報告する。インターンシップに参加した全 23 人中、19 人から回答を受領した。このアンケートで問うた質問は以下の 8 問である。

---

質問 1. インターンシップをして、どうでしたか。

- a. とても良かった
- b. まあまあ良かった
- c. 良くも悪くもなかった
- d. あまり良くなかった
- e. 全然良くなかった
- f. その他 ( )

→ どうしてそう思いましたか。



質問 8. その他のコメント・感想

上記質問の中で、質問 1、2、および 8 は、インターンシップに関する留学生の感想を聴取するもの、質問 3、4 はインターンシップの仕事内容について確認するもの、質問 6、7 は今後のインターンシップ実施について、筆者らの参考とするために留学生の意見を求めたものである。

質問 1「インターンシップをして、どうでしたか」と質問 2「仕事内容や会社の人の指示について、どう思いましたか」は、選択回答式の質問で問い、その理由を自由記述式で回答させたが、選択回答式の質問の結果を下の表 2 に示す。

表 2 「インターンシップをして、どうでしたか (質問 1)」、「仕事内容や会社の人の指示について、どう思いましたか (質問 2)」の選択式回答の結果

回答選択肢	学生数：質問 1「インターンシップをして、どうでしたか」	学生数：質問 2「仕事内容や会社の人の指示について、どう思いましたか」
とても良かった	16	18
まあまあ良かった	2	1
良くも悪くもなかった	1	0
あまり良くなかった	0	0
全然良くなかった	0	0
その他	0	0

これらの回答から、外国人留学生にとってのインターンシップの印象は概ね良かったと言える。またこの質問 1 と質問 2 の選択式質問の回答に対して、「どうしてそう思いましたか」という自由記述式質問を添えたが、この質問 1 と質問 2 の自由記述式回答内容、更に質問 8 でその他のコメント・感想を自由記述式で回答させた内容が重複するものが多かったので、まとめて下記表 3 に報告する。回答の内容はいくつかのカテゴリーに分けて、これらに該当する記述をした学生の人数を併せて表 3 に示す。ただし、一人の学生が複数のカテゴリーに該当する記述をしたものが多数あるので、アンケートに回答した学生数 (19 人) と表にある学生数は一致しないことに留意されたい。更に、全ての回答を「ポジティブな回答」と「ネガティブな回答」に大別して示す。

表 3 に示されるように、ポジティブな回答の中で、「社員が親切だった」という回答が最も多い。社員との交流は、Zhang (2009) がインターアクション (学習対象言語でのやりとり) は言語習得の大きな鍵の一つであると主張するように、インターン留学生の日本語コミュ



表3 「インターンシップをして、どうでしたか（質問1）」、「仕事内容や会社の人の指示について、どう思いましたか（質問2）」、「その他のコメント・感想（質問8）」の自由記述式回答の結果

	回答（自由記述）	学生数
ポジティブな回答	社員が親切だった	17
	日本語の勉強になった・日本語をもっと勉強したいという気になった	2
	日本文化の勉強になった	4
	仕事内容を学ぶことができた	4
	仕事が楽しかった・仕事が興味深かった	9
	仕事が簡単だった・仕事が分かりやすかった	6
	いい経験になった・新しい経験ができた・いい思い出ができた	9
	またこのインターンシップ先を訪れたい	2
	インターンシップ先の食べ物が美味しかった	1
ネガティブな回答	仕事が簡単すぎた・つまらなかった	3
	インターンシップの期間が短すぎた	1
	通勤が大変だった	2
	社員の説明が少なかった	1
	社員がいない時にお客さんの対応をしなくてはいけなかった	1

コミュニケーション能力向上に寄与するものであると考えられる。この回答は、「日本語の勉強になった」という直接的な回答と合わせて、留学生の日本語能力の向上に貢献するものであると考えられる。また、「日本文化の勉強になった」という回答はこのインターンシップが文化学習の機会となったことを示すが、この回答をした学生数は4と比較的少なく、更に4人の回答者の内3人は寺院を就業現場としたインターンシップに参加した学生であったため、日本文化に言及するのは当然であったとも思われる。一方、「仕事内容を学ぶことができた」、「仕事が楽しかった・仕事が興味深かった」という回答は合わせて15と多いが、これは各企業・団体の業務内容に対する興味を示すもので、インターンシップの本来の目的の一つである、インターン学生が進路決定に貢献するものとして解釈できる。その他の回答は、今回のインターンシップに対する一般的な好印象を示すものとしてまとめられる。

一方、ネガティブな回答も複数寄せられたが、その中で「仕事が簡単すぎた・つまらなかった」、「インターンシップの期間が短すぎた」という回答に関しては、「もっと充実感の得られるような仕事がしたかった」、「もっと長い期間したかった」という感想であると解釈できる。インターンシップのやり方に対するネガティブな回答ではあるが、インターンシップに対する留学生のポジティブな意欲を表すものであると言えるであろう。

質問 3 では、どんな仕事をしたかについて聴取した。この質問も、自由記述で回答させたが、回答の内容を「通訳・翻訳」、「その他の具体的な作業」、「単純作業」の三つに分けて下の表 4 に示す。

表 4 「どんな仕事をしましたか (質問 3)」の結果

回答 (自由記述)	学生数
通訳・翻訳	6
その他の具体的な業務	14
単純作業	5

「通訳・翻訳」の業務は、特に留学生の強みを生かしたものであり、こうした業務を留学生インターンに課したのは国際交流団体や観光関係の企業であった。また、表 4 の中で「その他の具体的な業務」と分類したものは、例えばホテルでのフロント業務、国際交流団体での資料作成、製薬会社での商品開発・包装の補助、また食品店で商品の包装などがこれに該当する。一方、企業や団体における就業に限らず一般的な生活で必要とされる作業、例えば掃除、荷物の運搬などは、「単純作業」としてまとめた。「その他の具体的な業務」が最も多い回答となったことは、インターンシップ先企業が単純作業以上の業務を体験させたということであり、これが表 3 (質問 2) において「仕事内容を学ぶことができた」、「仕事を楽しかった・仕事が興味深かった」という回答が多かったという結果に繋がったと考えられる。

質問 4 では、インターン留学生が大変だと感じたことを聴取した。この質問は選択回答式としたが、「その他」という選択肢を選んだ上で大変だったことを自由に記述させた内容も含め、下の表 5 に示す。

表 5 「大変だったことは何ですか。(質問 4)」の結果

回答選択肢		学生数
仕事がつまらなかった		0
仕事が忙しかった		0
仕事が難しかった		2
会社の人とのコミュニケーションが難しかった		3
通勤が大変だった		6
その他	暑かった	1
	インターンシップ先の立地が、つまらない場所だった	1
	ずっと立っていることが大変だった	1
	日本の小学生達が初めあまり話してくれなかった	2
特になし・無回答		6

外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践：留学生を対象としたアンケート結果から

表5にある回答の内、「日本の小学生達が初めあまり話してくれなかった」というものは、地域貢献団体（表1⑧）の地域小学生を対象とした夏季学習プロジェクトに関するものである。全ての回答の中で最も多かったものは「特になし・無回答」と「通勤が大変だった」の二つである。この内通勤については、インターンシップ先企業の立地と交通の便の問題であるので、解決することは難しい。その他の回答は全て少数であり、インターン留学生にとって概ね今回のインターンシップが負担とはならなかったことを窺わせる。

質問5では、自分が体験したインターンシップを、他の留学生に薦めるかどうかについて聴取した。結果、19人全ての留学生が「おすすめる」と回答した。その理由についても自由記述式で回答させたが、その結果をいくつかのカテゴリーに分けて下の表6に示す。

表6 「このインターンシップを、後輩の留学生におすすめしますか。  
（質問5）」の自由記述式回答の結果

回答（自由記述式）		学生数
社員が親切だから		1
日本語の勉強になるから・日本語をもっと勉強したいという気になるから		4
日本文化の勉強になるから		2
仕事内容を学ぶことができるから		7
仕事楽しいから・仕事が興味深いから		2
仕事簡単だから・仕事分かりやすいから		2
いい経験になるから・新しい経験ができるから・いい思い出ができるから		6
注意事項	人との交流が好きではない人には薦められない	1
	通勤に1時間（通勤代が2000円）かかるのが気になる人には薦められない	1
無回答		1

ここで挙げられている回答は、概ね表3に表される結果と重複しているが、回答数が大きく異なっているのは、表3で多数であった「社員が親切」、「仕事が楽しい・仕事が興味深い」という回答が少なく、「仕事内容を学ぶことができる」という回答が最も多くなっていることである。これは、インターンシップに参加した学生たちにとって最も印象に残ったことは「社員が親切」であり、「仕事が楽しく、興味深い」ことであった一方で、インターンシップに参加する意義は「仕事内容を学ぶことができる」ことにあると考えていることを示唆している。この捉え方は、就職や進路の決定に貢献するというインターンシップ本来の意義と一致するものである。

質問6では、自分が体験したインターンシップに他の留学生が参加することになった場

合の注意事項・アドバイスを自由に記述させた。回答をいくつかのカテゴリーに分けて下の表 7 に示す。

表 7 「このインターンシップを、後輩の学生がすることが決まったら、その後輩にアドバイスはありますか。(質問 6)」の結果

回答	回答の具体的な内容	学生数
持参すべき物についての助言	疲れにくい靴・着替えの服	3
	弁当	2
	宿泊に際して (シャンプーなど)	1
日本語に関する助言	通勤時の駅のアナウンスを注意して聞く	1
	「鉛筆」や「ハサミ」といった言葉を知っておく	1
	敬語を勉強しておく	1
	挨拶や自己紹介を考えておく	1
通勤に関する助言		3
ビジネスマナーについての助言		1
知っておくべき事柄についての助言		1
就業現場の施設・環境に関する助言		1
その他	緊張せず、気楽にすること	3
	仕事を頑張ること	3
特になし・無回答		3

表 7 に示される通り、持参すべきものについてのアドバイスが最も多かった。これは筆者らが次回のインターン留学生に伝えることができるもので、そのまま役立てられる情報である。また、日本語に関する助言の中で、「『鉛筆』や『ハサミ』といった言葉を知っておく」というものがあるが、これは、授業で教わることが少ない日常用品の名称に関するものである。大菅 (日本語教育学会中部支部研修会 発表 2018. 8. 24) が、日本の小学校に通う多くの外国人児童が、普段使っている「上履き」というものの名称を知らなかったという事例をあげ、一見して用途のわかるものの名称は覚える必要性がなく、また敢えて教わるものでもないという現象を報告しているが、「鉛筆」や「ハサミ」も同様の事例として解釈できる。こうしたものの名称は、教室外での生のコミュニケーションから学ぶ実用的な言葉であるという点で、インターンシップの語学教育上の効果が認められる。また、「挨拶や自己紹介を考えておく」という回答に関してであるが、挨拶や自己紹介などはインターンシップ前に実施したビジネス日本語講座で学習している筈の内容である。この回答からは、ビジネス日本語講座で扱っている内容が正しいことが確認できたと同時

外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践：留学生を対象としたアンケート結果から、こうした講座のインターンシップ参加学生の受講を徹底させることが必要であるという教訓が得られる。

質問7では、今回実施したインターンシップ事業に関して、学生視点からの改善点などの指摘を求めた。自由記述回答であったが、回答をいくつかのカテゴリーに分けて下の表8に示す。

表8 「このインターンシップについて、「改善したほうがいい」、「直したほうがいい」と思うことは何ですか。(質問7)」の結果

回答 (自由記述)		学生数
インターンシップ期間をもっと長くするべき		4
インターンシップの時期を大学の授業がない時期にするべき		1
その他	インターンシップ先に宿泊施設が欲しい	1
	インターンシップ先に宿泊するにあたって、生活用品を揃えて欲しい	1
	通勤手当が欲しい	1
	もっと色々な仕事をさせて欲しい	1
	日本語面での準備を充実させて欲しい	1
	インターン留学生は二人以上いたほうがいい	1
特になし・無回答		9

「特になし」という回答が最も多いが、意外にも「インターンシップ期間をもっと長くするべき」という回答が4人の留学生から寄せられた。前述の通り、2017年度にインターンシップに参加した3人中2人、そして2018年度に参加した20人中11人の留学生が、インターンシップ応募時に日数の短縮を希望しているが、上記表8で「インターンシップ期間をもっと長くするべき」と回答した4人の学生の内3人は、応募時にインターンシップ日数の短縮を希望した学生である。この回答のミスマッチは、複数の学生が、インターンシップに参加することが不安で短い日数を希望して応募したが、実際にやってみると「もっとやりたい」と感じたということを示唆している。一方、筆者ら企画・運営をする側にとっては、はじめからインターンシップ期間を長く設定すると応募者が少なくなるかもしれないという不安がある。この問題に対しては、インターンシップの実施を重ねるに連れ、留学生の間で「インターンシップは良いものだ」という評判が広まり、その結果日程短縮を希望する留学生が減ることを待つといった受動的な対応が現実的であると考えられる。

#### 4. 考察

今回のインターンシップに参加した留学生達を対象としたアンケート結果によると、イ

インターンシップでの就業経験を良かったとする留学生が多い。彼、彼女らがポジティブな印象を持った理由として最も多いものは受け入れ企業・団体の社員の親切さである(表3)。筆者らがインターンシップを実施する意義として挙げたものの一つは、大学の外での日本人との交流によって、留学生達の日本語演習、日本文化学習の場を与えることであったので、社員との交流が留学生の印象に強く残っているという結果は、本事業の成果としてカウントできる。また、最も直接的に日本語学習に寄与した結果として、「『鉛筆』や『ハサミ』といった言葉を知っておく」ことが必要だとする留学生の気づきがある(表7)。前述の通り、これは日本人なら誰でも知っているような言葉でありながら学習者が日本語の授業で教わる機会が少ない言葉であり、実際に日本で生活する上で実用的な語彙に関する学習である。ただし、インターンシップ修了後のアンケート作成に関しての反省点として、留学生の日本語能力の向上を問う「インターンシップをして前よりも日本語がうまくなったと思うか」、「インターンシップをして学んだ新しい日本語の言葉は何か」といったような質問が欠けていたという問題があり、今後の課題としたい。

また、インターンシップに参加した留学生達が、「仕事内容を学ぶことができる」(表6)ことを理由として、他の留学生にインターンシップをお薦めすると回答していることが着目すべき点として挙げられる。これは、就職や進路の決定に貢献するというインターンシップ本来の意義と一致するものであり、インターンシップでの体験が留学生達にとっての職業選択や進路決定に貢献し得ることを示している。今回インターンシップに参加した留学生の大半が短期留学生であったことから、彼、彼女らがインターンシップ先企業または他の日本企業に就職する可能性は高くないが、三重大学の正規の学生である留学生がこうしたインターンシップに参加した場合、その留学生達の就職に大きく貢献する可能性がある。筆者らは今回のインターンシップを参加留学生の就職に直接寄与するものとしては実施していなかったため、インターンシップ修了後のアンケートには就職に関する質問は含まなかったが、今後のインターンシップ実施の際には「日本で就職することについて、インターンシップの前と後で自分の気持ちに変化があったか」、「今回インターンシップをした企業に就職したいと思うか」などといった質問を含め、留学生の就職意欲についてより直接的に検証したい。

## 5. おわりに

本稿は、2017年度から2018年度8月までに、三重大学地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門が実施した外国人留学生対象インターンシップ事業について、特に参加留学生を対象としたインターンシップ修了後アンケートの結果を報告したものである。

外国人留学生を対象とした三重県内インターンシップ実践：留学生を対象としたアンケート結果から

このインターンシップ事業では、留学生の学び、とりわけ日本語演習の機会と会社での仕事内容について学習する機会を与えることができた。また、今回、インターンシップ参加留学生の事前準備（ビジネス日本語講座など）や修了後アンケートの内容についていくつかの課題が確認された。今後こうした課題を解消し、インターンシップ事業の改善に努めたい。

#### 参考文献

- 就職情報研究会（2017）『就活のやり方 [いつ・何を・どう?] ぜんぶ！（2019年度版）』実務教育出版
- 正路真一・福岡昌子・松岡知津子（2019）「企業を対象とした留学生インターンシップ事業の実践：受け入れ企業へのアンケート結果から」『三重大学国際交流センター紀要』vol.15.
- 三浦一秋（2016）「インターンシップの教育効果についての分析－学習意欲向上と就業意識向上効果の観点から－」『インターンシップ研究年報』vol.19, pp. 1-10.
- 文部科学省・厚生省労働・経済産業省（2014）『インターンシップの推進に立っての基本的考え方』（[http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/sanshou\\_kangaekata.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/intern/sanshou_kangaekata.pdf) 2018年8月26日取得）
- Zhang, S. (2009) The role of input, interaction and output in the development of oral fluency, *English Language Teaching*, 2 (4), pp.91-100.